

## 第2学年 国語科学習指導案

日 時 令和2年10月30日(金)5校時  
場 所 雫石町立雫石中学校 2年1組 教室  
学 級 2年1組 30名(男子16名 女子14名)  
授 業 者 教諭 中 村 唯 子

### 1. 単元名 兼好法師にもの申す! 徒然草の読みから広げる

### 2. 学習材名

中心教材 『徒然草』より「仁和寺にある法師」(光村図書国語2)

### 3. 単元の目標

- (1) 現代語訳や脚注などを手掛かりに『徒然草』を読んだり、音読をしたりして、『徒然草』に表れたものの見方や考え方について知ることができる。 [知識及び技能] (3) イ
- (2) 『徒然草』を読んで、兼好のもの見方や考え方に対し、自分の考えをもつことで、より自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 [思考力・判断力・表現力等] C (1) オ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 「学びに向かう力、人間性等」

### 4. 単元について

#### (1) 学習者観

2年1組の生徒は、1年次では『いろは歌』『竹取物語』を学び、2年次で『枕草子』を学んできている。歴史的仮名遣いに関する知識や、当時の貴族の考え方や生き方に触れることによって、平安時代も現代と同じような感覚を持っていることを学んでいる。古典に対しては「難しいもの」と決めつけてなかなか意欲的に学ぶことができないでいる。本単元では、「仁和寺にある法師」で古典独特の歴史的仮名遣いでの音読を行い、内容を理解しながら、古典の中での随筆を学び、その他の教材では、現代文で内容を読み解き、どの作品が現在の中学生の悩みの解決に繋がる考え方になるのかをみつけていく。1組の生徒は男女とも、好奇心があり、答えを導きだそうと話し合い活動も班長を中心に活発である。できるだけ、一人一人の自由な発想を生かしながら、考えを深めるような学習ができると期待している。

#### (2) 教材観

「徒然草」は鎌倉時代末期、兼好法師が記したとされる随筆である。この作品は二百四十三段。僧の滑稽話から天皇の話、作者の日常生活に至るまで、さまざまな話が盛り込まれた、読み応えのある作品である。一つ一つの章段からは、兼好法師の独自の人や自然に対する見解が感じられ、一見すると、笑い話に捉えられるような章段であっても、そこには兼好法師の、社会を風刺するような鋭い視点、ものの道理を示すような言葉も見ることができる。

本単元では、古典「徒然草」に描かれているさまざまな教訓に対し、現代を生きる中学生の考えを交流する言語活動を行い、今と昔のもの考え方、感じ方の違いを味わい、読むことの楽しみをもたせていくことに適した教材と考える。現代文で提示することで、自分の身近な経験に置き換えることができる内容であり、古典を身近なものに感じさせることができると思われる。

また、「徒然草」に描かれた世界観や作者の思いを想像し、さまざまな「教訓」に触れ、「徒然草」の世界観や作者の考え方に対する自分の考えを広げ、さらに、自分の今の生活での社会の在り方との違いを比較することで、自己の考えを形成していく力を身につけるのに適している教材である。

### (3) 指導観

- ① 作者のもの見方、考え方に対し自分の考えをもつことが、読書の楽しみ方の一つであることを、多くの段を読むことを通して気づかせたい。また、他者と交流することで、自分の考えが深まったり、広がったりすることを知り、主体的に人と関わる態度を育てたい。
- ② 自分の知識や体験と結び付けて「徒然草」を読めるように、わかりやすい教材を提示し古典へのイメージが変わり、古典作品を含め、より読書に親しもうとするような意識づくりをめざす。

## 5. 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
① 現代語訳や脚注などを手掛かりに『徒然草』を読んだり、音読をしたりして、『徒然草』に表れたもの見方や考え方について知ろうとしている。 〔知識及び技能〕 (3) イ	② 『徒然草』を読んで、兼好のもの見方や考え方に対し、自分の考えをもつことで、より自分の考えを広げたり深めたりしている。 〔思考力・判断力・表現力等〕 C (1) オ	① 現代語訳や脚注などを手掛かりに作品を読み、古典に表れたもの見方や考え方について積極的に知り、周りとの交流をしながら自分との違いについて粘り強く考えようとしている。

## 6. 単元計画 (全4時間)

時	学習事項	評価
1	◇随筆「徒然草」の背景、兼好法師の人物像を「徒然草」の序段や現代版から捉える。  ・序段を原文で音読する。  ・随筆とは何かについて捉える。	・歴史的仮名使い ・背景 ・人物像 ・随筆  <b>知識・技能①</b>
2	・「仁和寺にある法師」を古典特有の表現やリズムに注意しながら音読し、学習シートに沿って、出来事と兼好の言葉を読み取る。  ◇仁和寺の法師は、①なぜ、失敗をしたのか。②兼好法師は、そこから何を教訓にしたのか。を班ごとに考え、全体で共有する。	・知らないのに一人で行ったこと。 ・変と思っても確認しなかったこと。 ・目的地を事前に確認しなかったこと。 《教訓》 「何事をするにも、そのことをよく知っている人 (=その道の専門家) が、必要であること。」  <b>知識・技能①</b> <b>思考力・判断力・表現力①</b>

<p>3</p> <p>本時</p>	<p>◇兼好のものの考え方を徒然草の章段からみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後輩からの相談へどう答えるか。3つの悩みに対して、自分なりの答えを考える。</li> </ul> <p>◇兼好の章段から導いた答えをみて、自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問3について、自分の考えを「批判的」・・・「そうではない」「疑わしい」・・・「そうだろうか」「理解できる」・・・「よくわかる」「納得した」・・・「その通りだ」上記のどれかの立場として書く。</li> <li>・班の中で考えを交流し、自分の考えを深める。</li> </ul> <p>《班構成》＝3～4人班×8グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悩みの回答を想定</li> <li>・教訓と回答の比較</li> <li>・立場を明らかにして兼好の考えに対し自分の考えをもつ</li> </ul> <p>「どんなときに、どう考えるか。」は、 考え方、知識・経験によって違う。</p> <p><b>思考力・判断力・表現力①</b> <b>主体的に取り組む態度①</b></p>
<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他の徒然草の章段を読み、心に残った章段について、感想をもつ。</li> <li>・「徒然草」のものの見方や考え方と自分との相違点や共通点、作品の魅力について自分の考えを書く。</li> <li>・読書とは、作者あるいは登場人物などのものの見方や考え方について、自分の考えをもちながら読むことに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他の章段を読み、感想をもてる。</li> <li>・評価を言葉で表現できる。</li> <li>・単元の学習のまとめを言葉で表現することができる。</li> <li>・今後の読書についての自分なりの考えをもつことができる。</li> </ul> <p><b>思考・判断・表現①</b> <b>主体的に取り組む態度①</b></p>

## 7. 本時案

### (1) 本時の目標

- ・章段の内容からみた答えと自分が考えた答えの違いから、兼好と自分の考えの違いについて、社会や価値観を踏まえながら自分なりの考えをもつことができる。

[思考力・判断力・表現力等] C(1)オ

- ・立場を明らかにして兼好の考えに対する自分の考えについて、周りとの交流をしながら、粘り強く、積極的に考えようとしている。

「主体的に取り組む態度」

(2) 本時の学習展開 (3 / 4 時間)

段階	学習活動	学習内容	主体的・協働的に学ぶための工夫	・指導上の留意点 □評価【指導事項】
導入	1 前時に確認した教訓を確認する。 2 学習課題を確認する。	1 「仁和寺にある法師」での教訓「何事においても、経験している人・知っている人に学ぶべき。」 2 学習課題を確認する。	前時までの学習シートを見ながら、確認させる。	・随筆の特性や兼好の考え方を学習シート等で見直して考える。
<b>兼好法師にもの申す。その答えでいいのか？</b>				
展開	3 3つの相談への答えを自分なりに考える。  4 3つの相談の兼好の章段からの答えを読み、自分の答えと比べる。  5 質問3の兼好の答えについて、「A 批判的」「B 疑わしい」「C 理解できる」「D 納得した」のどれかの立場として、自分の考えを書く。  6 班での交流を積極的に行い自分の考えを深め広げる。	3 自分の経験や知識をもとに考え、学習シートに書く。 Q1・最後の見直しをする。 ・簡単な問題ほど、よく見る。 Q2・点を取ろうとするより、1本ずつを大事にする。 ・仲間を信じる。 Q3・夢見てるんじゃない？ ・お金で買えないものもある。 ・お金持ちになりたい！  4 兼好と自分の考えを比べる ・なるほど。 ・具体的なアドバイスだ。 ・ええ？そうかな。  5 それぞれの立場での考えを学習シートに書く。  6 班での交流で自分の考えと周りの考えを交流させる。	相談について自分の知識や経験と結び付け、自分の考えを書かせる。  兼好のものの考え方を確認させる。  立場を明らかにして学習シートに考えを書かせる。  司会者は、必ず全員の考えを聞くように指名する。  交流で新たに学んだことを学習シートにまとめる。	□自分の知識や経験と結び付けて、自分なりの考えをもつことができる。 □現代語訳や学習シートを手掛かりに兼好の考えについて粘り強く、積極的に考えようとしている。  <b>【それぞれの立場】</b> A 衣食住以外を求めるのが贅沢とは思わない。(潤いは大事) B 衣食住があれば、生きていけるけれど、それだけでいいかな？ (勉強も大切では？) C コロナ禍で衣食住は最低限でもいいとは思ったけれど、少しは楽しみがほしい。(人との関わりは必要) D ホームステイでよくわかった。(無駄をせず、お金がたまる)
終末	<b>兼好法師にもの申す。私は、〇〇の立場から△△と考える。なぜなら◇◇だから。</b>			

